

# 教科書の調査研究報告書

安芸高田市・山県教科用図書採択地区合同調査委員会

校種	教科	教科用図書目録に搭載された教科書総数	本報告書の総ページ数
小学校	音楽	2	4

## 調査研究の観点及び各教科書の特徴

観点 発行者	基礎・基本の定着	主体的に学習に 取り組む工夫	内容の構成・配列 ・分量	内容の表現・表記	言語活動の充実
17 教出	<p>① 題材や学習目標の示し方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・題材名は見開き左上に横書きで記載してある。</li> <li>・各教材の学習目標がそれぞれの教材のページの左上に横書きで表記されている。音楽要素を、色を変えて示されている。</li> <li>・学習活動の見通しを示す文を見開き左側に縦書きで示している。また、目次にも見通しを示す文を示している。</li> <li>・新出の音楽記号は、見開き右側に記載されている。</li> <li>・学び方ナビ（学び方を知ろう）のマークを付け、文章で学習の仕方や活動の視点を記載している。また、同時にイラストや吹き出しを使って考え方のヒントなどを示している。</li> </ul> <p>② 歌唱の基礎基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年第4学年に「歌声」のコーナーを設け、歌い方のポイントを写真や絵と文で示している。＜例第3学年P43 体の力、のどのおく：第4学年p.29おなかを使って歌おう＞</li> <li>・「学びナビ」で言語活動と関連させ、歌い方の工夫を話し合わせたり考えさせたりする内容を入れている。</li> </ul>	<p>④ 音楽的な見方・考え方を働かせる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習過程の示し方 学習目標の扱い「みんなで合わせて」第3学年「音のひびきや組み合わせを楽しもう」、 「ひょうしとせんりつ」「音の動き方を生かしてせんりつをつくろう」など音楽を形づくっている要素とそのはたらきの視点を示した学習目標が示されている。</li> <li>・第3学年の音楽作りでは、まず楽器を選ばせることで意欲を持たせ、音の出し方を試行錯誤させながら音楽の感じを味わわせている。カードは6種類と多く、どの楽器でもクレッシェンドやデクレッシェンドが出せるよ</li> </ul>	<p>⑥ わが国の音楽に関する内容</p> <p>鑑賞曲：16曲、 歌唱教材：23曲、 和楽器：第2学年から18種 「にっぽんのうた みんなのうた」コーナーを配置。鑑賞教材では、実際に歌ったり、太鼓の口唱歌を唱えたりする活動が示されている。</p> <p>⑥ 題材や資料の配列</p> <p>歌唱：低学年から交互唱・輪唱・パートナーソングを配置。第3学年生から部分二部合唱、二部合唱が配置され、第5学年から三部合唱を導入し、系統的に学習が進められている。</p> <p>特徴的な楽器：ハー</p>	<p>⑧ 【共通事項】の指導を充実させる工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を形づくっている要素を「見開き右ページ上に「音楽のもと」として示し、中・高学年にはメモ欄がある。</li> <li>・巻末に「音楽のもと」があり音楽を形づくっている要素がまとめてある。表現は絵が多用されている。音楽記号などその学年までになるものとその学年で習うものが整理されている。</li> <li>・「打楽器資料」として打楽器の扱い方が各学年で順次紹介されている。</li> <li>・既習事項のページや関連の資料等のリンク先をかえるの</li> </ul>	<p>⑨ 表現及び鑑賞教材における言語活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・表現：第6学年歌唱教材の中で、学習過程を示し「曲全体のイメージやいいなと思ったところを話し合おう」「思いや意図が伝わっているか、『もっとこうしたいな』と思うところを話し合おう」など表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面が設定されている。また、実際に歌って音楽表現を高めている場面の設定などがあり、学び合う音楽として個人で曲の魅力を見つけたり、グループでどんな表現にしていきたいか話し合ったりして、学び合いな</li> </ul>

<p>17 教出</p>	<p>&lt;例第4学年 p. 29 スタッカートの歌い方, 第4学年 p. 29, 第5学年 p45 せんりつの特徴にあった声・歌い方&gt;</p> <p>③ 器楽の基礎基本の定着を図るための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダー学習の導入(第3学年) 目次にリコーダーのページをまとめて記載。指導順は【リコーダーのつくりや各部の名称を知る→鑑賞曲を聴く(5曲)→リコーダーの種類を知る(5種類)→楽器の構え方や持ち方を知る→「シ」の音をふく】となっている。</li> <li>・リコーダーの鑑賞曲「いつも何度でも」</li> <li>・リコーダーの扱い 「こんにちはリコーダー」と「めざせ楽器名人(2段階)」としてリコーダーの指導を特化し、3段階で指導している。第4学年で4段階めの指導が設定されている。</li> <li>・学習する音の順番 第3学年「シ・ラ・ソ・ド・レ・ファ・ミ・レ」 第4学年「ミ・ド・#ソ」 低音のドが第4学年で新出の音になる。</li> <li>・息の吹き込み方・タンギング・サミングの説明は、「大きなシャボン玉をふくときのような息でふく」タンギング「トゥ」「ル」 第4学年高音「ティ」サミングの2方法を写真と言葉で説明している。</li> <li>・指使いの説明は、階名、五線譜、吹き口を下にした子供の目線でのリコーダーのイラストで示してある。</li> <li>・息の吹き込み方:大きなシャボン玉を作る時のような息でまっすぐ出してふくよう説明してある。</li> </ul>	<p>うになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本のリズムや旋律が示された数種類のカードを組み合わせて音楽を作ることから始め、自分で考えたリズムや旋律に発展させて取り組むことができるような指導過程を取っている。</li> </ul> <p>⑤音や音楽を生活や文化などに関連付ける工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年・第2学年・第3学年では、音のスケッチとして身近な生活の中にある音を使って遊ぶことを取り上げている。第4学年生からは巻頭に音楽の世界で活躍されている人(新妻聖子さん, 野村萬斎さん, 辻井伸行さん)を取り上げている。また「音楽の旅」第5学年・「音楽にできること」第6学年など世界の音楽や音楽と社会のつながりなどについて示されている。</li> </ul>	<p>モニカ第1学年, グロックン・ビブラフォーン・マリンバ第2学年, シェーカー・フロアトーム第4学年, しの笛第5学年</p> <p>合奏曲: 第1学年なし, 第2学年4曲, 第3学年3曲, 第4学年2曲, 第5学年4曲, 第6学年4曲</p> <p>第1学年生は合唱曲なし。 第6学年で「八木節」を取り入れている。</p>	<p>マークで示し、振り返りや関連した学習ができるようになっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第3学年歌唱「せんりつのリズムを手で打つ」, 第6学年鑑賞「旋律の流れに合わせて手などを動かしたり」などにより体を動かす活動を取り入れている。</li> </ul>	<p>がら音楽を表現していくという学習を仕組んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・鑑賞:第4学年音楽に合わせて体を動かしたり, 歩いたり, 指揮をしながら聞いて, 気がついたことや感じたことを友達とお話しよう」と示すなど, 言語活動を取り入れている。</li> <li>・聞き取ったことなどを記入する欄の記載がある。書いたことをもとに, 友達と伝え合う活動の設定がある。</li> </ul>
------------------	--	--	--	---	---

## ① 題材や学習目標の示し方

- ・題材名はその題材のトップページの左側に大きく目立つように示している。また、トップページの題材名の地の色と同じ色の文字でその題材のすべてのページの左側に記載されている。
- ・各教材の学習目標がそれぞれの教材のページの左上に横書きで表記されている。
- ・学習活動の見通しを示す文を見開き左側の題材名の下に縦書きで示している。また、教材の目標の下にもその教材を学習するにあたっての活動の見通しが記載されている。目次の前に見開きページを作り、その学年で学習する内容がイラストと短い文で一覧できるように、まとめてある。
- ・新出の音楽記号は、「新しくおぼえること」という欄を設けて記載されている。
- ・キャラクターに噴出しの中で児童の気付きを引き出す呼びかけがなさせている。前に学習したことをもう一度確かめるためのページのマークで学習の基本を繰り返し学ぶ機会を設けている。

## ② 歌唱の基礎基本の定着を図るための工夫

- ・「うたごえ」や「歌声1・2」としたコーナーを設け歌い方を絵と文で示している。
- ＜第1学年口の中をあける、第2学年姿勢、第3学年頭声発声第4学年1のどのあけ方、2スタッカート・第5学年1低い音の時2変声期、第6学年1発声、②変声期＞
- ・言語活動と関連させ、歌詞・曲の特徴などをどう表現するかを考えさせる内容を取り入れている。＜第6学年ふるさと・思い出のメロディー＞

## ③ 器楽の基礎基本の定着を図るための工夫

- ・リコーダー学習の導入（第3学年）
- 指導順は【リコーダーのつくりや各部の名称を知る→鑑賞曲を聴く（2曲）→リコー

## ④ 音楽的な見方・考え方を働かせる工夫

- ・学習過程の示し方
- 学習目標の扱い「いろいろな音のひびきを感じ取ろう」第3学年「音のとくちょうを生かして音楽をつくりましょう」、「いろいろなリズムを感じ取ろう」第4学年「繰り返しや変化を使って、リズムアンサンブルをつくりましょう」など音楽を形づくっている要素とそのはたらきの視点をより具体的に示した学習目標が示されている。
- ・第3学年の音楽づくりでは、基本のリズムや旋律が例として示され、それを使って自分で考えたリズムや旋律を作って組み合わせる指導過程を取っている。まず、カードを選ばせ、リズムや旋律の特徴に合わせた楽器を選ばせる活動が示されている。

## ⑥ わが国の音楽に関する内容

- 鑑賞曲：22曲、
- 歌唱教材：16曲、
- 和楽器：第3学年から23種
- 「歌いつなごう日本の歌」コーナーを設置。鑑賞教材では、実際に口唱歌の体験や民謡の歌い方をまねする体験活動が示されている。

## ⑦ 題材や資料の配列

- 歌唱：第1学年で交互唱、第2学年で輪唱、第3学年オステイナート唱、第4学年でパートナー唱、二部合唱、第5学年で部分三部合唱、第6学年で三部合唱と系統的に学習が進められている。
- 特徴的な楽器：小太鼓・キーボード第2学年、長胴だいこ・ウィンドチャイム第3学年、こと・コンガ第4学年、カバサ・サスペンディッドシンバル第5学年
- 合奏曲：

## ⑧ [共通事項]の指導を充実させる工夫

- ・音楽を形づくっている要素を見開き右ページ下に示している。
- ・巻末の「ふりかえりのページ」にその学年で音楽を形づくっている要素が関連するページ番号とともにまとめられている。＜全学年＞
- ・巻末の資料のページに「いろいろな音符・休符・記号」が一覧で示され、前学年までに習ったものと本学年で習うものと色分けされ、本学年分はページが記され、新出ページと連動させてある。
- ・「新しく覚えること」として新出するたびに記されている。
- ・第3学年歌唱「せんりつを指でたどりながら」、第6学年鑑賞「音楽に合わせて体を動かしたり指揮のまねをした

## ⑨ 表現及び鑑賞教材における言語活動の工夫

- ・表現：第6学年歌唱教材の中で、「歌詞や曲の特徴について話し合いました」「どのように歌いたいかを考えて発表しましょう」など表したい思いや意図を言葉で伝え合う場面が設定されており、実際に歌って音楽表現を高められている場面の設定など、歌詞や曲の特徴について話し合う活動や、よりよい表現方法を考え、話し合う活動を仕組んでいる。また、音楽で思いを伝えることができるよう、自分の思いを書く欄を設定している。
- ・鑑賞：第3学年「かんだこと気付いたことをまとめましょう。」としてそのことを書くための表がある。まとめたことを振り返りながらア→イ→アの曲のまとまりに

<p>27 教芸</p>	<p>ダーの種類を知る(4種類)→楽器の構え方や持ち方・手入れの仕方を知る→「シ」の音をふく】となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダー鑑賞曲に「ピタゴラスイッチ」</li> <li>・リコーダーの扱い 第3学年「リコーダーのひびきをかんとろう」の題材で導入し(3段階),その後は、リコーダー指導と題材の学習目標を関連させて、リコーダーの指導を継続(4・5段階)させている。さらに第4学年で高音3度を「旋律の重なり」の題材で取り上げている。</li> <li>・学習する音の順番 第3学年「シ・ラ・ソ・ド・レ・ファ・ミ・レ・ド」 第4学年「ミ・ファ・ソ」 第4学年新出の3音が、1ページにまとめて表記されている。 リコーダーの紹介・演奏の基本事項が項目立てされ、イラスト・写真・文などで具体的に説明されている。(楽器の扱い方、息[音]の止め方、リコーダーの音あなのとじ方、指のはらがどこか等)</li> <li>・息の吹き込み方：大きなシャボン玉を作る時のような息でやさしくふくよう説明してある。</li> <li>・息の吹き込み方・タンギング・サミングの説明は、タンギング「tu トゥ」「t」と止めるスタッカート「ツウツ」高音「ティ」と発音するように・第4学年サミングの2方法を写真と言葉で説明してある。</li> </ul>	<p>⑤ 音や音楽を生活や文化などに関連付ける工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1学年・第2学年では、題材に身近な生活の中にある音に関心を持ち、音楽的要素を扱う内容を取り入れている。第3学年・第4学年では日本の鑑賞教材として伝統文化を取り上げている第5学年・第6学年生では巻頭に世界で活躍している表現者(浅田真央さんや市川猿之助さん)を取り上げ、音楽を表現の一部として示されている。また「特集」や鑑賞と歌唱などに関連させたり、題材として「日本や世界の音楽に親しもう」を設定したりして、世界の音楽や音楽と社会のつながりが示されている。低学年で音のおもしろさに気づかせ、第6学年生で音楽の働きや役割を考えさせるようにし、音や音楽と生活や社会との関わりと考える力が身につくよう系統的に発展させている。</li> </ul>	<p>第1学年1曲、第2学年2曲、第3学年4曲、第4学年3曲、第5学年4曲、第6学年5曲 第1学年生から合奏曲を取り入れている。</p>	<p>り」などにより体を動かす活動が示されている。</p>	<p>気をつけてききましよう」として、視点を持って再度音楽を聴く場面の設定がされている。</p>
------------------	--	---	--	-------------------------------	--